

地震情報 — 沼津西高

「速報装置」訓練で活用

変わる 危機管理 ②

「震度5強、17秒後：気象庁が発出した緊急地震速報を校内放送する装置が、地震発生までの残り秒数をカウントダウンする。沼津市の県立沼津西高で、定期的に行われる防災・避難訓練。生徒らは、ゼロが数え上げられる前に身を守る体勢を取る。

県教育委員会によると、県立の高校と特別支援学校でこうした装置が導入されているのは、2013年度設置予定校を含め、115校中のわずか7校。担当者は「速報



装置のあるなしにかかわらず、訓練を通じて生徒がいかに地震に対処できるようになるかが重要」とするが、設備の拡充が遅れている印象は否めない。地震の発生をいち早く

知らせる緊急地震速報は現在、個人が持つ携帯電話端末でも配信を受けられる。NTTドコモやKDDIといった携帯電話会社は、被災の恐れがある地域の端末にメールで速報を一斉配信するサービスを手掛ける。ところが、県教委によると、多くの県立高校が教育上の配慮から、携帯電話の校内持ち込みを制限する。現状では、生徒が個別に情報を得ることも難しい。

沼津西高が装置を導入

したのは12年11月。これまでに4回の防災・避難訓練で活用した。2年の羽切蒼さん(16)は「沼津市は一落ち着いて地震に備えることができるようになり、家庭科で火を扱っていても消してから避難する習慣がついた」と評価する。

県教委によると、受信装置の導入は、文部科学省の「実践的防災教育総合支援事業」の一環で、



「メモ」緊急地震速報は、少しでも早く身を守る行動が取れるよう、気象庁が地震の発生直後に、強い揺れの到達時間などを算出して発表する。初期微動を引き起こす地震波を地震計の観測網で感知し、大きな揺れが来る前に電気信号でテレビやラジオ、携帯電話端末などに予告する。近年は、県内でも携帯電話人口普及率が90%を超え、減災に大きな役割を果たすと期待されている。

ただ、最大級の地震の場合、県内は広い範囲で震度7〜6強の揺れが予想されている。「装置によって命が助かる地域もある。もっと広げていく必要がある」。沼津西高の樋口和男校長(60)の訴えが切実に響く。

12年度から助成を受けて始まった。予算の制約上、全校に設置するのは困難なため、県第3次地震被害想定津波浸水域に立地していたり、山・崖崩れの危険があったりする高校を優先した。14年度は、昨年公表された第4次想定浸水域にある県立高への新設を予定する。